

【書式例 5-3】

### 令和元年度 指定管理者点検結果

施設名	玉野市障害者地域活動支援センター「こころの里」
所在地	玉野市宇野1丁目8番8号
指定管理者	名称 特定非営利活動法人 円い空 代表者 理事長 青井 一展 住所 玉野市宇野1丁目8番8号
指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日（5年間）
担当部課	健康福祉部 福祉政策課 電話 0863-32-5556 E-mail fukushi@city.tamano.lg.jp

評価内容の総括	総合評価
施設管理、運営等の実施状況等、全体的には概ね良好な指定管理が行われている。 令和2年度においては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施できていない事業もあった。	B

\*行数は適宜調節してください。

#### ■ 「総合評価」の評価基準

- S（優良） 次の3項目の評価結果が全てA以上であり、かつSが2つ以上である。
- A（良好） 次の3項目の評価結果が全てA以上である。
- B（課題含） 次の3項目の評価結果にBが含まれている。
- C（要改善） 次の3項目の評価結果にCが含まれている。

① 業務の実施状況	評価結果
<p><b>【適切な施設管理の履行】</b> 障害者地域活動支援センターとして、障害のある利用者が自立した日常生活及び社会生活を営むことができるよう必要な支援が行われた。</p> <p><b>【法令等の遵守】</b> 法令等を遵守し、適切な施設運営が実施された。</p> <p><b>【安全性の確保】</b> セキュリティ・消防業務等の専門的な業務は、委託業者を用いながら適切に実施されている。</p> <p><b>【財産の適切な管理】</b> 維持管理は適切に実施されている。</p> <p><b>【利用状況】</b> 年間平均利用者数は、平成28年度以降、年々増加している。</p> <p><b>【コスト削減への方策】</b> コスト削減については、支出の8割が人件費関連の支出で、日頃からコスト削減の努力がされており、これ以上のコスト削減は見込めない。</p>	A
<p><b>② サービス向上への取り組み</b></p> <p>日常の相談援助業務及び地域交流等イベント等を継続し、サービスの維持向上に取組んでいる。</p>	A
<p><b>③ 団体の経営状態（経営の健全性）</b></p> <p>相談支援事業対応件数増加による、計画相談給付費収益増、経費削減等により、経営努力を行っているが、人件費が高くなってきており、赤字経営となっている。</p>	B

#### ■「評価結果」の評価基準

- S（優 良） 協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた内容である。
- A（良 好） 協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った内容である。
- B（課題含） 協定書等の基準を概ね遵守しているが、内容の一部に課題がある。
- C（要改善） 協定書等の基準が遵守されておらず、改善が必要な内容である。

## I 業務の実施状況に関する事項

### 1 管理体制の状況

(1) 指定管理業務の実施体制図（外部委託先を含む）

別紙「組織体制図」のとおり

### (2) 人員配置状況

施設長 1名（相談支援専門員 他事業所施設長 兼務）

精神保健福祉士 4名（常勤専従2名、常勤 相談支援専門員 兼務1名、非常勤1名）

支援員（非常勤） 1名

※常勤換算3.8人

### 2 施設・設備の維持管理業務の実施状況

#### ・建物・設備の保守管理業務

建物の老朽化が進んでおり、随時所管課と協議しながら補修等を依頼している。今年度の修繕箇所は無かった。

消防設備・電気設備の保守点検は外部に委託して行っている（岡山県備前県民局建設事務所・宇野港管理事務所、玉野市地域包括支援センターと合同）。

#### ・清掃業務

経費節減の観点から、通常の清掃は職員にて行っている。

屋外の植栽の手入れなどは年2回、利用者有志・利用者家族・支援ボランティアの協力を得ながら行っている。

年1回程度外部業者に委託し、床のワックスがけ等を行っている。

#### ・警備業務

警備・保守管理は外部に委託して行っている（岡山県備前県民局建設事務所・宇野港管理事務所、玉野市地域包括支援センターと合同）。

#### ・駐車場管理業務

岡山県備前県民局とも協議の上、利用者用駐車スペースを4台分確保している。

公用車及び職員通勤車両は行政財産使用許可を得て敷地内の駐車場を借用している。

### 3 利用等の許可の状況

原則として玉野市在住の精神科、心療内科等専門医に定期通院する方を利用対象とし、利用契約時に主治医より「情報提供書」を得ている。

利用者状況は、別表「令和2年度 利用契約者状況」参照のこと。

## II 施設の利用状況に関する事項

### 1 施設・設備の利用状況

・利用許可の総件数、各施設・設備ごとの利用許可（不許可）件数

・利用者名、利用日時、利用目的、参加者数 等

別表「令和2年度 利用契約者状況」のとおり。

### III 自主企画事業の実施に関する事項（協定書に追加した事項等）

#### 1 イベント名、内容、参加者数、収支状況 等

別表「令和2年度 利用契約者状況」および「地域交流活動推進事業実施報告書」のとおり。

### IV 料金収入の実績及び管理経費等の収支状況等

#### 1 利用料金の収入及び減免の状況

(1) 利用料金の収入総額、各施設、設備ごとの収入額 等 該当なし。

(2) 減免の総額、各施設・設備ごとの内訳、減免理由 等 該当なし。

#### 2 管理に係る収支の状況

(必要に応じ詳細な収支報告書を作成すること)

##### (1) 収入

項目	金額	備考（内訳など）
利用料収入	0	
指定管理料収入	17,000,000	
その他収入	4,528,024	計画相談給付費、寄付金、他
収入合計	21,528,024	

##### (2) 支出

項目	金額	備考（内訳など）
人件費	18,891,684	従業員給与、法定福利費及び福利厚生費
光熱水費	334,429	
委託料	256,457	保安委託料、電気設備・消防設備保守委託料、他
事務費	270,034	事務消耗品費、車両燃料費
修繕料	158,978	公用車定期点検費用、他
保険料	344,140	しせつの損害保険、公用車車両保険
租税公課 (事業所税を除く)	48,810	印紙代、登記事項証明書発行手数料、他
その他	1,276,663	外部講師等報償費、広告宣伝費、印刷製本費、通信費、備品消耗品費、支払手数料、新聞図書費、他
事業所税相当額	0	
消費税相当額	0	
支出合計	21,532,385	

## V 自己点検結果

自己点検の方法、結果、改善方法 等

隨時各職員により観察を行い、不具合が生じた際などは所管課と協議の上、軽微なものについては職員にて修繕等を行っている。業者に修理を依頼する場合や支援ボランティアの協力を得ることもある。

今年度は、公用車の車検の他は、消耗品の交換程度のみであった。

## VI 経費節減・サービス向上に関する取組み

日頃より、各職員の省エネ意識を高め合い、節電・節水に努めるとともに、利用者の皆さんにも省エネに対する意識をもって頂けるよう、各職員で働きかけを継続している。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、従来からの行事・地域交流普及啓発事業を継続することが困難となった。4月～7月にかけては、一定数以上の参加が見込まれる行事は休止とした。8月からの再開後も、各行事・活動について COVID-19 感染拡大防止の観点から、換気を行う、小グループに分かれて密集を避ける、食事中の会話は避ける等、集団感染のリスクを最小限とする対策を講じて行った。

幸いにして、施設において集団感染が発生することは無く、利用者・職員ともに感染者は確認されなかった。

行事の休止や規模の縮小を余儀なくされ、通所利用される方の滞在時間は減少する一方、純粋に「居場所」として過ごす利用者も散見され、地域において各種の障害福祉サービス等が拡充する中、利用者の通所先の選択肢の一つとして一定の支持が得られていることが再認識された。また、通所利用件数自体は微減にとどまり、電話相談は昨年度に引き続き高い件数で推移した。

相談支援事業においては、年々高い件数で推移しているが、当センターで対応できる上限にはほぼ達しており、今後新規の利用者をどこまで受け入れるかは引き続き不透明である。

家族支援においても、事業としては、多くの家族が高齢となる中、感染症拡大防止の観点から、当面活動は休止せざるを得なくなつた。

利用者の当事者活動についても、感染症の影響は大きく、当面は大人数が集まる親睦や交流の場は自粛せざるを得ない状況である。

## VII その他

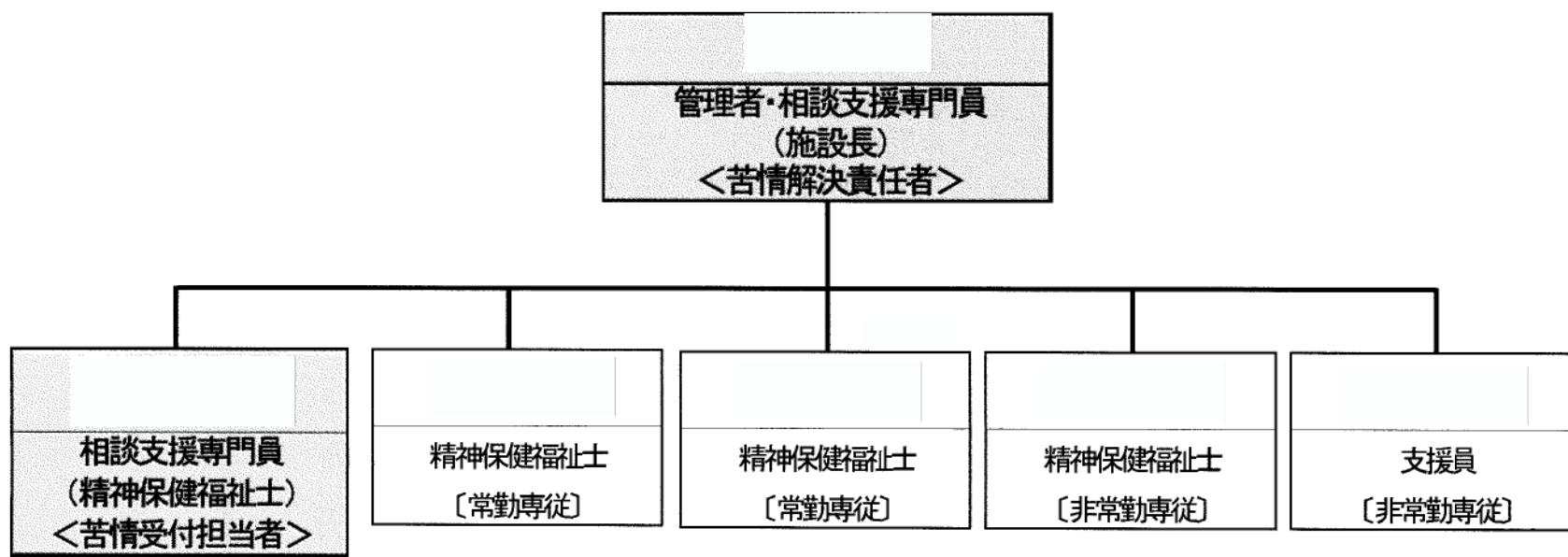
感染症の影響を大きく受けた一年であったが、新規利用者は一定数あり、「安心して過ごせる居場所の提供」、「憩える場の創造」という支援センターの基本ベースを再確認できた一年であった。

「居場所」としてのセンターを重要視する利用者にとっては、行事等で滞在できるスペースが限定されることがかえってストレスとなる様子もうかがえ、今後、市中の感染症の動向もみながらではあるが、以前のような地域交流・社会交流の場としての機能と、静かに思い思いに過ごす居場所としての機能をいかに両立していくかが課題と感じられた。

感染症の影響により、長期的な視点をもって諸課題に取り組むことが困難な面もあるが、目の前の利用者一人一人に個別の支援を行うことのできる体制を維持し、利用者・家族・地域の関連機関・市民より支持される支援センター像の新しいあり方の確立を目指していきたい。

## 地域活動支援センター こころの里

組織体制図 (地域活動支援センター I 型・指定特定／一般相談支援事業所)



## 令和2年度 利用契約者状況 (令和2年3月31日 現在)

表1. 開所日数・利用契約者・相談事業利用状況

開所 日数	契約利 用者数	新規契約		契約解除者		利用者数(実人数)		一人 平均		利用者数(のべ)		一日 平均 (人)		相談状況						面接 相談	電話 相談	同行・ 訪問	サロン	夜間電話件数			家族	見学・ 来訪者					
		男	女	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	人間関係	生活関連	仕事関連	高齢・癡	既往歴	精神疾患	その他	18:00～ 20:00	19:00～ 20:00	20:00～ 21:00											
4月	21	339	1	1	1	103	62	41	5.6	574	385	189	27.3	479	18	192	27	10	131	99	2	68	369	42	47	0	0	0	0	6	28		
5月	20	338	0	0	1	0	92	57	35	5.8	532	362	170	26.6	440	8	204	28	5	78	14	3	70	337	32	44	1	0	1	0	10	24	
6月	22	338	1	0	1	0	98	58	40	5.9	576	390	186	26.2	456	13	205	31	14	89	104	0	55	358	43	55	0	0	0	0	9	37	
7月	20	339	3	0	1	1	105	60	45	5.1	540	358	182	27.0	484	5	244	26	18	82	108	1	74	358	52	45	0	0	0	0	16	25	
8月	21	339	1	2	2	1	99	60	39	5.7	568	382	186	27.0	523	4	299	35	8	85	92	0	90	392	41	39	2	0	0	2	18	30	
9月	19	341	2	2	1	1	103	63	40	5.3	548	355	193	28.8	575	9	301	35	9	110	11	0	97	433	43	41	1	1	0	0	0	24	27
10月	23	340	0	0	0	1	101	56	45	5.9	600	388	212	26.1	558	7	343	15	10	91	92	0	89	434	37	31	0	0	0	0	0	25	77
11月	20	343	2	1	0	0	89	53	36	5.7	511	350	161	25.6	490	5	319	18	7	68	72	1	51	399	41	28	0	0	0	0	18	25	
12月	20	345	1	1	0	0	93	57	36	5.9	546	348	198	27.3	461	8	265	5	4	107	72	0	55	363	43	32	1	0	1	0	17	40	
1月	19	347	1	1	0	0	93	60	33	6.0	554	370	184	29.2	535	9	280	13	7	130	94	2	82	388	44	46	1	0	1	0	23	37	
2月	18	348	1	0	0	0	93	53	40	5.6	518	311	207	28.8	465	6	266	8	4	109	72	0	63	367	35	43	0	0	0	0	15	25	
3月	20	350	2	0	0	0	111	67	44	5.7	629	384	245	31.5	615	11	314	10	11	160	168	1	78	484	56	49	1	0	1	0	17	29	
合計	243	350	15	8	7	5	-	-	-	-	6,696	4,383	2,313	27.6	6,081	103	3,232	251	107	1,240	1,138	10	872	4,682	509	500	7	1	4	2	198	404	
平均	20.3	-	-	-	-	-	98.3	58.8	39.5	5.7	558.0	365.3	192.8	27.6	506.8	8.6	269.3	20.9	8.9	103.3	948	0.8	72.7	390.2	42.4	41.7	0.6	0.1	0.3	0.2	16.5	33.7	

表2-1. 生活支援事業参加状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
料理教室	-	-	-	-	4	-	5	-	4	-	5	-	18	4.5
手芸教室	3	-	3	-	3	-	2	-	2	-	3	-	16	2.7
カレーの日	12	-	-	-	7	-	7	-	8	-	14	-	48	9.6
鯛の日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0.0
絵手紙講座	-	-	2	2	3	3	3	3	3	4	3	3	29	2.9
スポーツの日(卓球)	-	0	2	2	1	2	2	1	2	2	2	2	18	1.6
ソフトバレーボール	-	-	-	-	3	2	2	2	2	-	-	2	13	2.2
のど自慢会	4	-	-	-	4	6	4	2	-	2	4	2	28	3.5
ショッピング作り	-	-	-	-	4	8	5	4	4	5	4	5	39	4.9
リフレッシュ教室	2	-	4	4	2	3	2	1	2	-	2	3	25	2.5
パソコン教室	0	2	4	1	1	1	2	1	1	2	3	2	20	1.7
ペーパークラフト教室	1	1	1	1	1	1	2	1	2	1	2	1	15	1.3
ランチの日	-	-	-	-	7	-	10	-	12	-	16	-	45	11.3
せんざいの日	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	13	13.0	
きなこもちの日	12	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	22	11.0
磯辺餅の日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	13	13.0	
講演会視聴会	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	5	5.0
合計	34	3	16	10	33	33	36	25	30	41	56	50	367	90.5

表2-2. 当事者活動参加状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
めばるの会	3	3	4	3	4	3	4	2	2	2	1	2	33	2.8
結婚結采の会	-	6	-	6	-	5	-	6	-	6	-	-	29	5.8
合計	3	9	4	9	4	8	4	8	2	8	1	2	62	5.2

表2-3 ボランティアよりの支援状況(参加ボランティア数:延べ)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
植物パンティア	4	4	3	4	2	4	4	4	4	4	3	3	43	3.6
カレーの日	3	-	-	-	2	-	2	-	2	-	1	-	10	2.0
料理教室	-	-	-	-	3	-	3	-	1	-	2	-	9	2.3
手芸教室	1	-	1	-	1	-	1	-	1	-	1	-	6	1.0
絵手紙講座	-	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	8	0.8
ソフトバー	-	-	-	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0.0
ショッピング作り	-	-	-	4	5	4	5	1	4	4	3	3	30	3.8
リフレッシュ教室	1	-	1	1	1	1	1	1	1	-	1	1	10	1.0
ランチの日	-	-	-	-	1	3	-	2	-	2	-	3	10	2.5
その他	0	0	8	0	0	15	0	15	0	0	0	38	32	3.2
合計	9	4	14	5	14	31	13	26	11	13	11	164	13.7	

※地域交流事業含む

表2-4. 家族支援事業参加状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
家族サロン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0.0
家族の集い	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	50
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0.4

※「その他」:グループホーム入居、1年以上の長期入院、など

	家族と同居	一人暮らし	その他	合計
男性	129	48	26	203
女性	109	27	11	147
合計	238	75	37	350
%	68.0	21.4	10.6	100.0

表2-5. 利用者平均年齢(歳)

	平均年齢	前年度比
男性	49.72	+ 0.20
女性	50.69	+ 1.31
全体	50.13	+ 0.96

地域交流活動推進事業実施報告書

【 サロン・コンサート 】

日 時	※ 新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から今年度は中止
場 所	
参加人数	
方 針	
内 容	

## 地域交流活動推進事業実施報告書

### 【 こころの里まつり 】

開催日時	令和 2年 10月 3日（土曜日） 11時30分～13時50分
開催場所	駐車場
参加人数	利用者：26名 家族会：1名 運営ボランティア：14名（岡山メンタル友の会、個人登録ボランティア、 社協ボランティア） 出演ボランティア：10名（玉野フォークダンスクラブ） その他：4名 職員：6名 /合計：61名
内容	<p>《 目的 》</p> <p>地域との交流と、こころの里の活動を知っていただく事を目的に、利用者・家族・各種ボランティア団体・地域住民の方と共に、毎年の恒例行事として祭りを開催している。</p> <p>当日は参加者が、模擬店・カラオケ・ゲーム・フォークダンスなどを通じ、楽しく気軽に交流し、お互いの理解を深め合う。当事者会による出店や利用者のステージ出演を募集し、利用者が積極的に行動し、達成感を味わえる場となることを期待する。</p> <p>尚、例年は学生にステージ出演を呼びかけ、若者に対し精神障害への理解や支援を啓発する機会としてきたが、今年は新型コロナウイルス感染防止のため学生のステージは中止した。</p> <p>《 内容 》</p> <p>今年は新型コロナウイルス感染防止の対策として、3密を避け、消毒、マスク着用を徹底。内容も例年より規模を縮小することで出演ボランティアの人数を減らし、開催時間を短縮した。全体の参加人数としては昨年の半分というささやかなお祭りとなつたが、上半期のイベントや行事が次々に休止となつた中で、「こころの里まつり」が開催できたことは良かった。当日は天気に恵まれ、屋外で開放感のある祭りとなつた。日頃から支援をいただいているボランティアの協力による各種模擬店や地域の作業所からの応援出店で、来場者には食事や買い物を楽しんでいただいた。今年も当事者会「めばるの会」のメンバーが家族の会と一緒に模擬店の販売を担当した。</p> <p>ステージの催しは観客席と距離をとり、恒例のど自慢大会は各自マイクカバーを付け替えて行った。密になりにくいゲームとしてbingoゲームを採用。景品を用意し来場者全員参加で盛り上がつた。</p> <p>フォークダンスでは、玉野フォークダンスクラブの方が、手を繋がずに皆で楽しめる踊りを選んで下さり、華やかなフィナーレを飾ることができた。</p> <p>《 反省及び課題など 》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年は安全に開催することを目標として、できる範囲の内容で行った。</li> <li>・前日準備から当日の片付けまで多くのボランティアが関わってくださいました。</li> <li>・当日ボランティアの方1名が転倒により怪我をされ、申し訳なかった。</li> <li>・来年は当たり前にお祭りができる世の中に戻って欲しいが、当たり前と思っていたことも工夫、改善の余地がある事にも気づかされた。</li> </ul>

地域交流活動事業実施報告  
【こころの里まつり】



会場の様子



bingo大会



フォークダンス  
(玉野フォークダンスクラブの皆さん)

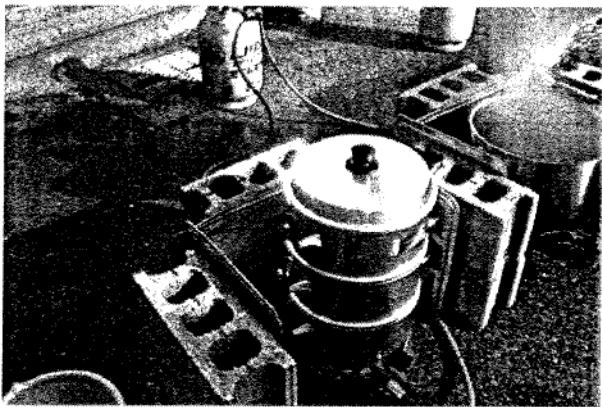


ボランティアの皆さんによる  
模擬店

**地域交流活動推進事業実施報告書**  
**【お餅つき交流会】**

日 時	令和2年12月19日（土曜日）10時～12時30分
場 所	こころの里 サロン・調理場 他
参加人数	利用会員：14名 家族：1名 ボランティア：10名 岡山メンタル友の会 2名 さくらんぼの会：1名 福祉政策課：3名 職員：6名 ／合計37名
内 容	<p>【お餅つき交流会】</p> <p>《 目 的 》</p> <p>季節の行事である餅つきを通して、精神障害者（利用会員）と地域ボランティアがふれあい、協力しあうことにより、お互いの理解を深める。</p> <p>《 内 容 》</p> <p>男性利用者・男性ボランティアを中心に協力して、6臼（鏡餅・持ち帰り用丸餅・お手入れ用）の餅をつき、女性利用者・女性ボランティアは建物共用の玄関にてお餅作りと昼食の準備を行う。参加者全員で、ついたお餅と豚汁を昼食としていただきながら交流を図る。</p> <p>利用者より 300 円の参加費を徴収し、年始用のお餅を持ち帰っていただく。</p> <p>《 反省及び課題など 》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ノロウイルス防止に加えて新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加者全員に手洗いと消毒、手袋・マスクの着用を徹底。餅に直接触れる人（餅作り・きな取り）はキャップも着用。人が密集するお餅作りと昼食時も場所と机の配置を変えることで3密を避けて行うことができた。</li><li>・例年と比べて利用者・ボランティア共に参加人数が少なかつたが、感染症拡大の影響で次々とイベントや行事が中止となる中で、年の瀬の恒例行事として餅つき交流会が開催できたことは良かったと思う。参加された方も、様々な制約の中ではあるが楽しまれている様子であった。</li><li>・つく数を例年の9臼から6臼に変更。滞りなくつき終えることができ、餅も多少固めではあるが全てきれいな仕上がりとなった。</li><li>・蒸し始めの時間が毎年曖昧になってしまうため、来年度からは 10 時から蒸し始めで統一することとした。</li></ul>

地域交流活動事業実施報告  
【お餅つき交流会】



もちつき準備



開会式



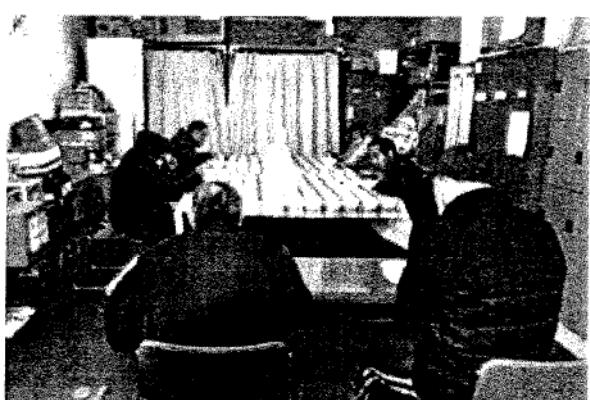
餅つき



お手入れ餅



餅作り



食事風景

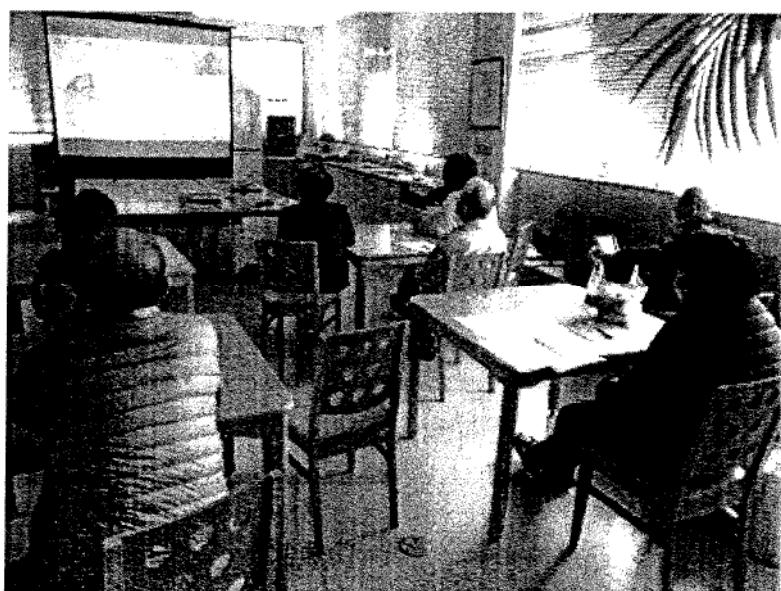
**地域交流活動推進事業実施報告書**  
**【玉野こころの講演会（ネット配信）】**

開催日時	令和3年2月27日(土) 13時00分～ネット配信開始(以降隨時視聴可能)
開催場所	※インターネットによる配信のみ
参加人数	初回配信時同時再生：18件 配信開始後24時間以内の再生回数：63回 令和3年3月31日までの総再生回数：112回 ※以降は期間を区切って視聴人数を確認する
内容	<p>《目的》</p> <p>広く一般市民を対象とし、精神保健福祉について少しでも多くの方々の理解を得る機会となるよう、講演会を開催し啓発活動を行う。関係機関と協力し「玉野こころの健康を考える会」として活動を展開することで精神保健医療福祉に携わる関係者のネットワークを築いていく。また、精神医療・保健・福祉の社会資源を広く地域住民にPRする機会としても活用していく。</p> <p>《内容》</p> <p>テーマ：「コロナ禍のメンタルヘルス」～不安社会を生きる～ 講師：精神科医 佐藤俊介 氏（岡山県精神保健福祉センター）</p> <p>今年度は新型コロナウイルス感染症感染防止のため、客を入れての講演会は断念し、インターネットの動画配信による実施となった。</p> <p>例年玉野市の会場に200人規模の来場者があり、同時開催の＜こころの健康展＞や合唱のコーナーなどの付加価値もあったが、一方で今回は今まで足を運べなかつた方、知らなかつた方にも届けられるという、新たな可能性が広がる試みとなつた。</p> <p>「コロナ禍のメンタルヘルス」はまさに真っ只中の状況にあり、また大きな災害が頻発する不安社会に今生きているという実感がある。講演では全ての人にあてはまるテーマを、コロナ禍におけること、コロナ後の時代、不安社会を生きるヒントと順を追つて分かり易く話して下さった。</p> <p>《反省及び課題など》</p> <p>この講演会の運営自体が他の多くのイベントと同様に、コロナ禍での喪失感や価値観の変化にリアルにリンクし、結果ネット配信という新しい手法にチャレンジする機会を得ることにもなつた。</p> <p>インターネットでの視聴は、いつでも、誰でも、何度でも見られるという利点があるが、作り手としては、会場での空気、リアクション、終了直後の熱量で書いてもらうアンケート等が重要である事を再認識した。今後は会場での講演と隨時視聴できる配信の両方で、それぞれの良さを活かしていくべきと思う。</p>

地域交流活動事業実施報告  
【こころの講演会】



収録風景



視聴会（こころの里にて）

## 【書式例 5-4】

## 令和2年度 指定管理者自己点検結果

点 檢 日	令和3年 6月 22日 ( 3回目)
施 設 名	地域活動支援センター こころの里
所 在 地	玉野市宇野一丁目8-8
指 定 管 理 者	名 称 特定非営利活動法人 円い空 代表者 理事長 青井 一展 住 所 玉野市宇野一丁目8-8
指 定 期 間	平成31年 4月 1日 ~ 令和6年 3月31日 ( 5年間)
担 当	地域活動支援センター こころの里 電 話 0863-33-5151 E-mail maruisora.5151@tulip.ocn.ne.jp

評価内容の総括	総合評価
<p>本施設のこれまでの実績を基盤として、利用者の個々のニーズへの対応に努め、きめ細やかな支援を強化していくことを主眼に事業を実施しており、指定管理、運営等の実施状況は良好であり、全体としても良好に指定管理を行っている。</p> <p>一方、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度は実施できなかった事業もあった。</p>	B

\* 行数は適宜調節してください。

## ■ 「総合評価」の評価基準

- S（優 良） 次の3項目の評価結果が全てA以上であり、かつSが2つ以上である。
- A（良 好） 次の3項目の評価結果が全てA以上である。
- B（課題含） 次の3項目の評価結果にBが含まれている。
- C（要改善） 次の3項目の評価結果にCが含まれている。

① 業務の実施状況	評価結果
<p><b>【適切な施設管理の履行】</b> 障害者地域活動支援センターとして、利用者・利用者家族・支援ボランティア・地域の関係機関の意見を踏まえながら、精神障害のある利用者が自立した日常生活及び社会生活を営むことができるよう必要な支援を継続している。</p> <p><b>【法令等の遵守】</b> 障害者総合支援法や岡山県が定める条例、玉野市障害者地域活動支援センター条例等の法令等を遵守し、適切な施設運営が実施できている。</p> <p><b>【安全性の確保】</b> セキュリティ・消防業務等の専門的な業務は、委託業者を用いながら適切に実施されている。</p> <p><b>【財産の適切な管理】</b> 維持管理は適切に実施されている。</p> <p><b>【利用状況】</b> 利用契約者は毎年増加。また、年間平均利用者数は昨年度よりは減少したが、開設以来2番目の高水準にあった。</p> <p><b>【コスト削減への方策】</b> コスト削減については、支出の8割以上が人件費関連の支出で、日頃からコスト削減の努力がされており、これ以上のコスト削減は見込めない。</p>	A
<p><b>② サービス向上への取り組み</b></p> <p>利用者に対し個別の日常の相談援助業務を継続するとともに、施設の認知度を上げるための地域交流等イベント等を継続するとともに、オンラインによる講演会の配信など、サービスの維持向上に取組んでいる。</p>	A
<p><b>③ 団体の経営状態（経営の健全性）</b></p> <p>相談支援事業対応件数増による計画相談給付費収益増等により、経営努力を行ったが、単年度では若干の赤字となった。</p> <p>経験と実績のある専門職者の確保及び年々従業員の昇給も考えなくてはいけない状況に鑑み、財源について玉野市との協議も継続していく必要があるものと思われる。</p>	B

■ 「評価結果」の評価基準

- S（優 良） 協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた内容である。
- A（良 好） 協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った内容である。
- B（課題含） 協定書等の基準を概ね遵守しているが、内容の一部に課題がある。
- C（要改善） 協定書等の基準が遵守されておらず、改善が必要な内容である。